

猪上 淳・豊田威信：オホーツク海氷上のエアロゾルの数濃度の特徴

Jun INOUE and Takenobu TOYOTA: Characteristics of Aerosol Number Concentrations over the Ice-Covered Okhotsk Sea

2003年2月に巡視船「そうや」に乗船し、海氷に覆われたオホーツク海でのエアロゾル数濃度の観測を気象観測と共に行った。粒径半径0.35ミクロン以上の数濃度はバックグラウンド値と同程度であった。しかしながら観測期間は総観規模の気象状況によって数濃度が相対的に低い期間と高い期間の2つに分けられた。後方流跡線解析によって、数濃度が高い空気塊は日本

海を通過してきたものであり、一方それが低い空気塊は北方の海水域を起源とするものであることが分かった。この結果は、海面での海塩粒子の供給を抑制する海水がエアロゾルの分布を左右することを示唆する。さらに観測データと経験式を用い、空気塊の差異によるエアロゾルの短波放射強制を議論した。

橋本明弘・播磨屋敏生：梅雨期の対流性降水雲の発達段階に依存する雨滴粒径分布の特徴

Akihiro HASHIMOTO and Toshio HARIMAYA: Characteristics of Raindrop Size Distribution Dependent on the Life Stage of a Convective Precipitation Cloud in the Baiu Season

対流雲の物理的な構造は時間変化が激しく、その中で生成される雨滴の粒径分布特性はその影響を受けている可能性がある。

そこで、九州南西岸で行なわれた3ヵ年にわたる地上観測 (TREX, 1996; X-BAIU-98, 1998; X-BAIU-99, 1999) の際に取得した雨滴粒径分布データを用いて、対流雲の最盛期と衰退期の雨滴粒径分布特性を調べた。最盛期では、対流活動が強いほど全ての粒径で

数濃度が増加していた。一方、衰退期では最盛期における対流活動が強いほど大きな粒径の数濃度の割合が増加する傾向があり、対流雲の発達ステージ毎に雨滴粒径分布特性が異なっていた。観測データに基づいて新たに得られたこの解析結果は、対流雲の発達ステージによって降水形成過程が変化することを示唆するものである。

編集後記：気象学会が2007年に創立125周年を迎えるにあたり、「天気」でも記念事業を行う計画で、ここ数回の編集委員会やメーリングリスト等で、内容を議論しています。今のところ、年間を通じて、特集の解説を掲載することと、過去の「天気」を電子化することが、案として有力です。

具体化の議論は続きますが、特集記事に関しては、「5～6ページの分量で、例えば気象業務とか学会の歴

史等のテーマ別に、一般会員でも気軽に読める解説を年間通して掲載する」「同じ分野で最先端の研究者と、歴史を知る名誉会員レベルの方の解説を同時に掲載するのも興味深い」「100周年でもレビュー記事を掲載しているの、今回はその後の25年に絞った解説が良いのでは」等の意見が出されています。読者の皆さんも、アイデアを是非お寄せください。

過去の「天気」の電子化に関しては、「天気」は今年

52巻で、49巻以降は電子化されているので、1～48巻が対象となります。業者に発注する方法や、市販のpdf作成装置を購入する方法など、予算との兼ね合いで手法を探っています。全巻一斉に電子化するのではなく、記念事業などの機会があるたびに逐次電子化を過去に遡っていく可能性もあります。

それにしても、「天気」が50年以上に亘り発刊を積み重ねてきたことに、本来業務の傍ら事務局を担当される気象庁内編集委員と、学会編集書記の方々の努力を考えずにはられません。様々な記事が掲載される中、誤った情報を発行しないよう校正するのは本当に大変なことと思います。

「天気」の編集書記として、お世話いただいていた遠藤和子さんが、退職されることになりました。遠藤さんには、私の見過ごした誤りを厳しくチェックしてもらったり、編集のタイミングにあわせて督促をもら

など、何度も助けていただきました。感謝しています。遠藤さん、長い間お付き合いいただき、本当にありがとうございました。

(小司禎教)

1998年7月号から8年近くにわたり、編集書記として「天気」の編集及び学会事務局の仕事に献身的にご努力下さった遠藤和子さんが、この度退職されることになりました。抜群の判断力とときばきとした仕事の処理で、私たち編集委員は大いに助けられてきました。長い間、本当にありがとうございました。

10月号からは棚橋公子さんに後任をお願いする予定です。当分の間、遠藤さんにもご助力いただきますが、皆様方の編集作業に対するより一層のご協力をお願いいたします。

(編集委員長)

「天気」編集委員会

編集委員長 新野 宏(理事)

編集委員 里村雄彦(理事)・古川武彦(理事)

藤部文昭(理事)

青柳暁典・池田 徹・榎本 剛

大淵 濟・笠原真吾・勝山健一

金田昌樹・上口賢治・川島正行

小出 寛・小林健二・桜井敏之

佐藤晋介・小司禎教・関山 剛

高橋 宙・田口晶彦・寺坂義幸

中西幹郎・中村 尚・新村典子

林 修吾・平井雅之・別所康太郎

水野 量・山本 哲

地区編集委員 北海道 伊藤道男・渡部雅浩

東北 土井雅彦・岡本 創

関東 岡田憲治・河野耕平

中部 岡田 京・永尾一平

関西 松村 哲・堀之内 武

九州 磯部英彦・中島健介

沖縄 新里博美

編集書記 遠藤和子

複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい個人または団体(図書館も含む)は、著作権者から複写権等の行使の委託を受けている下記の団体から許諾を受けて下さい。

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル
学術著作権協会

Tel : 03-3475-5618, Fax : 03-3475-5619

E-mail : jaacc@mtd.biglobe.ne.jp

Notice about photocopying

In order to photocopy any article from this publication, you or your organization must obtain permission from the following organization which has been delegated for copyright for clearance by the copyright owner of this publication.

Japan Academic Association for Copyright Clearance (JAACC)

9-6-41 Akasaka, Minato-ku, Tokyo 107-0052, Japan

Tel : 81-3-3475-5618, Fax : 81-3-3475-5619

E-mail : jaacc@mtd.biglobe.ne.jp